

福井県講道館講習会審判講習（全般）

令和3年11月3日 会場 福井県立武道館

講師 森 英也先生

内容

全国でもコロナ感染間患者が減少傾向にありますが、感染対策に配慮し福井県講道館講習会審判講習が開催され県内から91名の受講者が参加しました。

今回は森先生が用意されたビデオの内容を中心に技や反則の説明が行われ、受講者より日頃の疑問等に関して多くの質問があり大変有意義な講習会となりました。

先ず、講習会冒頭の審判技術向上の中で、審判は馴れも必要で、数をこなす、間隔を空けない方がレベルアップにつながるのお話がありました。

また、過去の経緯ではオリンピック終了後、ルール改正が行われるがコロナ禍の影響によりパリオリンピックまでの開催期間が3年となっており、現時点では大きなルール変更の予定は無い事と、今年のIJF国際大会は1人審判で行われていくとの事でした。

講習会内容、今回はコロナ対策として、森 英也先生が用意されたビデオの内容を中心に、技や反則の判断の説明が行われました。

柔道着に関する注意点

柔道着の規定の中で特に注意する事

- ・ 臀部全部が覆われていること
- ・ 測定器がスムーズに入る事
- ・ 選手は柔道着が乱れないように、着衣にも注意する。

また、選手には柔道着の規定があつて違反すると試合に出られない場合もあり、その道着をチェックする立場の審判員自身も正しい服装を心がける。

道着を直す行為に対して

- ・ 遅延行為として故意に柔道着を直している場合、指導を与える。
(帯をほどこうとしている選手に対しては、先ずはそれをやらない様に先ずは口頭で注意する。)

質問：挿し帯、回し帯は禁止ではないのか

回答：元々IJF規定にあるが、最近では試合進行に影響がない場合は指導を取らな

い。ただし、帯を緩く締め、直ぐに道着が乱れるような場合は指導を与える。

質問：女子の髪の結い直しは2回目で指導ではないのか

回答：髪の結い直しも開始線に戻るまでに直せばカウントしない。

開始線に戻っても直さない、遅延行為として髪を直す場合は指導を与える

質問：開始時に、自分の袖をめくる（ちぢませる）行為に関して

回答：:極端（組めない様で）でなければ指導は取らない。

試合の決着に関して

反則、3回目の累積指導に関して、審判団で合議を行い「反則負け」を与える。ただし、副審2名が指導のジェスチャーしており、主審もその内容に同意している場合、合議する必要はない。

I J Fの大会では両者反則負けの場合GSには移行しない、ただし 国内の大会で勝敗を決する必要がある場合は申し合わせ事項でGSを行う

技の定義

一本の定義

- ・一本に関して、背中と畳の接地面積だけでなく崩し作り掛けの一連の流れも含め判定する。（スピード、力強さ、背中を着く、着地が終わるまでしっかりとコントロールしているかを重視する。）
- ・ブリッジに関して、顎を上げて技を受けるかを重視して判断する。（通常顎を引いていれば、ブリッジになる事は無い）

技ありに関して

- ・一本の4つの規定全てを満たしていない場合、技ありを与える。
- ・技あり2本で 一本になる。（肘が外にでている場合はノースコアとする。）
- ・投げられた時に、両肘、両手ついた場合はスコアとする。（片方、或いは 大きな時間差がある場合はノースコアとする）
- ・一本/技あり/ノースコアにもグレイゾーン(どちらとも取れる、見る角度で変わる場合)があり審判団でしっかり見極める事。

返し技に関して

- ・畳に背中をつけて（力を利用して）返し技を行った場合ノースコアとする。

立ち技から寝技への移行（片膝を着いた相手に対して）

- ・.投げ技をしかける事が出来る。

(この姿勢の場合で、両膝が付いている選手が投げを施した場合も、その技の効果を確認する)

- ・.関節、締め技を仕掛ける事が出来る
- ・抑え込みを選択することが出来る。

試合終了時の技の効果に関して

ブザーと同時(ブザーが鳴るタイミングまでに技への動作が入っている場合)スコアとする。(ケンケン内股等 連続性が認められる場合はスコアになる。)

寝技から立ち技に関して

寝姿勢から継続して立ち姿勢に移行した場合、投げ技の有効性を認める。

技の連続性に関して

投げ技を施して、その後、投げた選手が押し込んだ場合、一連の流れが認められスコアとなる。(一連の流れが途切れた場合はノースコアとする)

抑え込みのポイント

- ・三角での抑え込みに関して、概ね覆うように抑える事(背中にお腹が付いている様な状態では抑え込みを取らない事)
- ・足の絡みは、上からでも下からでも両足で絡んだ時は抑え込み解けたとする
- ・抑え込みされている側が、下からの三角締めの状態(抑え込んでいる側が「待て」がかかった時に直ぐに立てない状況)になった場合は解けたとする。(ただし、両足で首を挟んだ場合は、抑え込まれている選手に指導を与える。)

質問：巴投げ等の捨て身技からの関節技の判断は

回答：捨て身技が技として評価できない場合は指導(偽装攻撃)を与える

質問：立ち技からの関節技の指導と反則負けの判断に関して

回答：グレーゾーンなので審判員、審判委員で協議して決める事、ただし、メージの大小では無くその技が決まった時に重大な事故になる可能性を見て判断する事

反則負けに関して

危険行為

- ・脇固で相手に逃げる余地が無いほど一気に立ち姿勢から倒れ込む場合

- ・両手又は片手で、選手の袖または腕をつかみ、肘を伸ばす場合
- ・片手で袖込腰を行い、相手の肘に体を浴びせる場合（「参った」を行う余地が無いような場合は反則負けとする）

ヘッドディフェンス

（顎が上がっているかを見て判断する事）

柔道精神に反する事

- ・故意に足を踏みつけてわざを施す事（1回目は口頭注意、2回目で反則負けとする。）

指導に関して

絞め技を施す際に、相手の足（太腿裏）を伸展（伸ばす）行為は 指導をとる。

（膝裏、膝が曲がっている状態では指導を取らない）

最初からいきなり、両手で相手にハグしながら技をかける場合は、ベアハグとし指導をとる。

また、ダブルスコアで投げた相手が抑え込みした後、ベアハグした側が切り替えし抑え込みした場合は「待て」を与える。

服装を正さない場合

開始線に戻るまでに、服装を戻さない選手に対して服装を正す様に 1回目はジェスチャーのみで、2度目に指導を与える。（GSを挟んでも2回とカウントする）

少年規定

- ・両袖を持って投げ技を施す事は「反則負け」とする、
（相四つ、喧嘩四つの組み手において、相手の両袖を左右それぞれの手で持ちながら、袖釣込腰、大外刈、払巻込などを施技すること）

質問：少年の大会等で、ベアハグしてきた相手にさらに抱きついて裏投げ（指導対象）を施す場合があるがその場合はどのような指導を与えればよいか

回答：ベアハグをした時点で、「待て」としベアハグの指導を与えるのが良い。

質問：相手の足を足払いのようにして蹴っている場合の指導は

回答：状況を見て判断する事、足払いは相手の足を払いながら相手をコントロールして投げる技であり、

相手にダメージを与える目的や、組み合わせずに足を払う行為を繰り返す場合は、

早い段階で指導を取る事

礼法、審判を行う上での注意点

- ・ 審判で礼をする場合は、もどる時にゆっくり目に行うと丁寧に見える。
- ・ 審判の挙動は、落ち着いて、自信を持って動作を大きく行う。
- ・ 審判当日の体調管理は行う

主審

- ・ 寝姿勢になった場合、安全地帯を含め見やすい位置に移動する。(抑え込み等は頭の方から見た方がより見えやすい)
- ・ 副審の視界を遮らない、また、常に片方の副審が見える位置に移動する。
- ・ 主審は出来るだけ、ゆっくり動く様にする。
- ・ 抑え込みを宣告する場合、抑え込みのジェスチャーをゆっくり回りながら、時計の見える位置に移動する。
- ・ やっと組んだ時に「待て」をかけない。
- ・ 試合中、開始から終わりまで両試合者から目を離さない。
- ・ 「待て」や技判定のジェスチャーは5秒以上キープし、試合会場全員がわかる様に角度を変える。

副審

技判定のコールは主審の判定に疑義があるときにのみ訂正のコールを行う、ただし、絞め技、関節技で主審が見えない場合は副審がコールをする。

- ・ 反則のコール、主審側で見えていない場合、主審又は反対側の副審が見えている状態でジェスチャーをする。

(他の審判が確認出来るタイミングでジェスチャーを行い、何回も同一反則のコールをしない様にする事)

- ・ 寝姿勢での反則、或いは技の有効性を確認したい場合、まずは、「そのまま」宣言しその後確認を行う。

審判委員（シュリ）に関して

- ・ その試合会場の最高責任者である事を認識する事
- ・ 大きな試合の流れを止めない様にする。(初回の指導等の小さな相違は審判団の判断に任せる)
- ・ 審判員から意見を求められた場合、必ず応えなければならない。
- ・ 試合を止める権限を有し審判員の判断の修正を求める事が出来る。その根拠として映像は必須である事。

合議

- ・合議を行う時、必ず両選手が見える位置で行う。
- ・スピーディーな合議を行う、ただし勝敗を決する判断に関しては慎重に判断する。

質問：一本を宣告後、技の訂正があった場合、投げた方が抑え込みの体制から立ち上がるケースがあるがどの様に対応するのが良いのか

回答：一本宣言後、副審を確認してからそれまでを宣告する、両副審が技の訂正を示している場合は、抑え込みを宣言しその後一本の宣告を取り消す。また、国内ルールでは審判員にミスがあった場合は、元に戻すという規定がある為、可能な限り元の状態に戻す事

質問：近い位置の副審のみ、ピストルグリップ等が見え主審、他の副審が見えない場合、どの様にアピールすればよいのか？

回答：近い位置の副審が積極的にアピールしても良い、試合の流れを確認し主審、他の副審が見えるタイミングで反則をアピールする。

質問：ビデオ判定と一審制の福井県での導入に関して

回答：その県の財政事情もあり両方向からのビデオが導入できるのであれば一審制を導入しても良い。ただし片側のビデオでの一審制でなく、必ず両方或いは三方向から試合が確認できる体制が必要

反則負けに関して

河津掛け/脇固め/ダイビング/寝姿勢の相手を持ち上げ突き落とす事/蟹挟み/
軸足を後ろから足を刈る

(後ろから足を刈る反則は刈る事が「反則」で体落としの様に後ろから足を置く場合は該当しない。)

指導

- ・片足が出て、直ちに回らないか、技をかけない場合は指導、(偽装攻撃は指導)
- ・偽装攻撃は積み重ねではないので、その瞬間に指導を取る。
- ・ブロッキング、釣り手と引手(襟)の距離が近い場合が多い、攻撃動作か防御の為の動作か見極める事

負傷に対して

- ・頸椎、頭部にダメージが見られた場合、主審は医師を呼んで判断を仰ぐ事、

医師診断後続行不可能と判断された場合、合意の上試合を終了し「棄権勝ち」を与える。

・選手が医師を呼んだ場合、それまで、として相手に「棄権勝ち」を与える。
(手順：1 主審が医師に診断を要請し、負傷者を観察する。2 相手選手に「棄権勝ち」を与える。3 負傷者が場外に運び出されるまで観察する。)

・出血の場合、場外に出て止血を行う、その際、副審が付添い選手や医師が出血以外の処置をしないか監視する。

・試合者が嘔吐した場合、相手に「棄権勝ち」が与えられる。

・全柔連の試合の活法は医師が行う。

(地方の試合で活法を行う場合、頸椎、脊椎に損傷を与える可能性がある為、活法は座位の状態で行わない。)

時計係記録係との連携に関して

国内の試合では技のスコアや罰則が与えられた時に時計係が審判員に聞こえるように発声しながら表示する事を今後推奨していく

質問コーチングの指導の ジェスチャーは

回答：1 回目は口に指をあてるジェスチャーを行う。

質問：ブロッキングと防御姿勢の違いに関して

回答：両手で抑えている方が攻撃を行う動作をしているかを注目する。両手で抑えているだけで攻撃動作が無い場合はブロッキングを取る。

追記

主審が発声する掛け声

1. 始め
2. 待て
3. それまで
4. そのまま
5. よし
6. 一本
7. 技有り
8. 指導
9. 反則負け
10. 抑え込み
11. とけた
12. 技有りわせて一本
13. 棄権勝ち
14. 不戦勝ち

団体戦

15. 例
16. 引き分け